

## 20 交通社会における運転者の資質と責任

### はじめに

学習指導要領にどのように書かれているかを確認することから始めます。この単元は学習指導要領上の位置づけとしては、**エ 交通安全 (イ) 交通社会に必要な資質と責任** の内容に該当します。

指導要領解説には、

交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や車両の特性などを把握すること及び個人の適切な行動が必要であることを理解できるようにする。また、交通事故には責任や補償問題が生じることを理解できるようにする。

その際、高校生は、二輪車及び自動車の運転免許取得可能年齢となり、多くの者が近い将来、運転者として交通社会の一員となることを考慮し、加害事故を起こさない努力が必要であるという視点を重視する。

内容の取扱いでは

(1) のエについては、二輪車及び自動車を中心に取り上げるものとする。また、自然災害などによる傷害の防止についても、必要に応じて関連付けて扱うよう配慮するものとする。

と書かれています。

#### 【理解できるようにすること】

- 交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や車両の特性などを把握すること及び個人の適切な行動が必要であること。
- 交通事故には責任や補償問題が生じること。

#### 【重視する視点】

- 高校生は、二輪車及び自動車の運転免許取得可能年齢となり、多くの者が近い将来、運転者として交通社会の一員となることを考慮し、加害事故を起こさない努力が必要であること。

### 授業づくりの実際（指導と評価の一体化を意識して）

内容の取扱いの(8)には、指導に際しては、知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うものとする。となっています。これは、「保健」の指導に当たっては、知識の習得を重視した上で、知識を活用する学習活動を積極的に行うことにより、思考力・判断力等を育成していくことを示したものである。指導に当たっては、ディスカッション、ブレインストーミング、ロールプレイング（役割演技法）、実習や実験、課題学習などを取り入れること、地域や学校の実情に応じて養護教諭や栄養教諭、学校栄養職員など専門性を有する教職員等の参加・協力を推進することなど多様な指導方法の工夫を行うよう配慮することを示したものです。

《例示》

【知識・理解】→指導方法と評価方法の検討

- 自他の生命を尊重する態度について
- 状況の把握と適切な行動（主体要因・環境要因・車両要因を把握し、適切な行動をとること）について
- 交通事故の責任と補償について

【思考・判断】→指導方法と評価方法の検討

- 運転中の車窓の図を提示し、予想できる危険やその回避方法を考える。

【関心・意欲・態度】→評価方法の検討

- 今日の学習のどの場面でどのように評価するか。

上記の指導方法や評価方法を念頭に、指導内容の順序や発問の仕方、知識を活用する学習活動の取り入れ方などを工夫し、1時間の授業を組み立てていきます。

#### 本単元のキーワード

「道路交通法」「死角」「刑事上の責任」「民事上の責任」「行政上の責任」「強制保険」「任意保険」